

<小学校 学級経営>

一人ひとりが生き生きと活動する学級経営の工夫

—— 個々のよさを生かした場づくりを通して ——

糸満市立糸満南小学校教諭 下 門 添 美

目 次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究仮説	31
III	研究の全体構想図	32
IV	研究内容	33
1	学級経営の意義	33
2	学級経営の内容	33
3	生き生きと活動するとは	33
4	「よさ」を生かすとは	33
5	一人ひとりを生かすための教師の基本姿勢	34
6	児童の実態のとらえ方	34
7	テーマと関連した取り組み	35
V	授業実践	38
1	単元名	38
2	単元設定の理由	38
3	単元の指導目標	38
4	単元の指導計画	38
5	本時の指導計画	38
6	授業の考察	40
VI	研究の成果と今後の課題	40
1	成果	40
2	今後の課題	40

<小学校 学級経営>

一人ひとりが生き生きと活動する学級経営の工夫

— 個々のよさを生かした場づくりを通して —

糸満市立糸満南小学校教諭 下 門 添 美

I テーマ設定の理由

最近、「不登校」や「学級崩壊」が大きな社会問題となっている。それは、児童を取り巻く社会環境の変化や家庭環境の変化、児童自身の忍耐力のなさや社会性の未熟さなどにも原因があるが、教師側からも問題点を出すことができる。

児童が有意義な学校生活を過ごすためには、その基盤をなしている「学級」が重要となってくる。学級は、一人ひとりの児童が仲良く助け合い、認め合い、励まし合いながら生活していく所でなければならない。生活の場として成り立たなければ、学習の場としての学級も成り立たない。

しかし、これまでの学級の児童の実態を見ると、

- ・一部の活発な児童のおかげで活動には支障がなかったが、中には、消極的で友だちが決めたことを言われたままにやる子や全然やろうとしない子がいた。
- ・相手の悪い所だけを見て批判したり、自分のわがままを押しついたりして喧嘩になる子がいた。
- ・無断欠席や遅刻の多い子がいた。（基本的生活習慣が身についてない。）
- ・集中力がなく飽きっぽい子がいた。

などが挙げられ、児童は学校生活を有意義に過ごしているとは言えなかった。また、自分の実践を振り返って見ると、

- ・児童一人ひとりについての理解が足りず、活動への支援が十分でなかった。
- ・学級経営についての理解が浅く、充実した実践ができなかった。
- ・日々の実践の中で、自分のこれまでの学級経営についてじっくり考える機会を見い出すことができなかった。

などの反省が残り、学級経営の工夫と改善を行う必要性を痛感した。

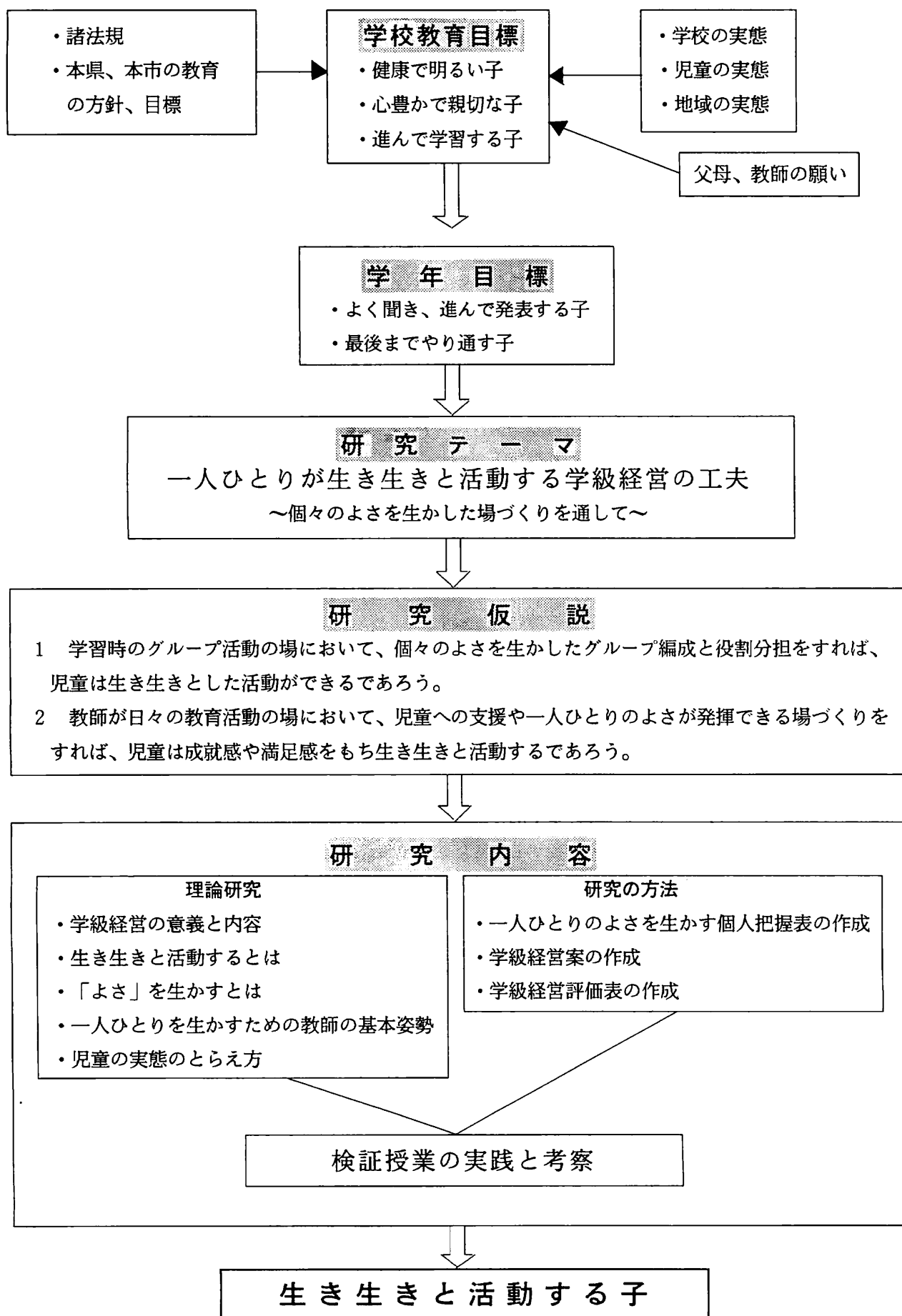
児童は、いろいろなよさや可能性を持っている。そして、学習や各種の活動の場において教師の指導や援助を受けることにより、楽しさや成就感・満足感を持つようになり、さらに自主的に活動しようとするようになる。一人ひとりが生き生きと活動するようになれば学級も活気に満ち、さらには学習に対する取り組みも意欲的になってくると思う。したがって、教師は、一人ひとりの児童を正しく理解し、個々のよさを認め、その可能性を伸ばすような学級経営をすることが重要となってくる。

そこで、これまでの学級経営を反省し、児童一人ひとりがよさを生かせるような支援をしてあげれば、生き生きとした活動ができるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 学習時のグループ活動の場において、個々のよさを生かしたグループ編成と役割分担をすれば、児童は生き生きとした活動ができるであろう。
- 2 教師が日々の教育活動の場において、児童への支援や一人ひとりのよさが発揮できる場づくりをすれば、児童は成就感や満足感をもち生き生きと活動するであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



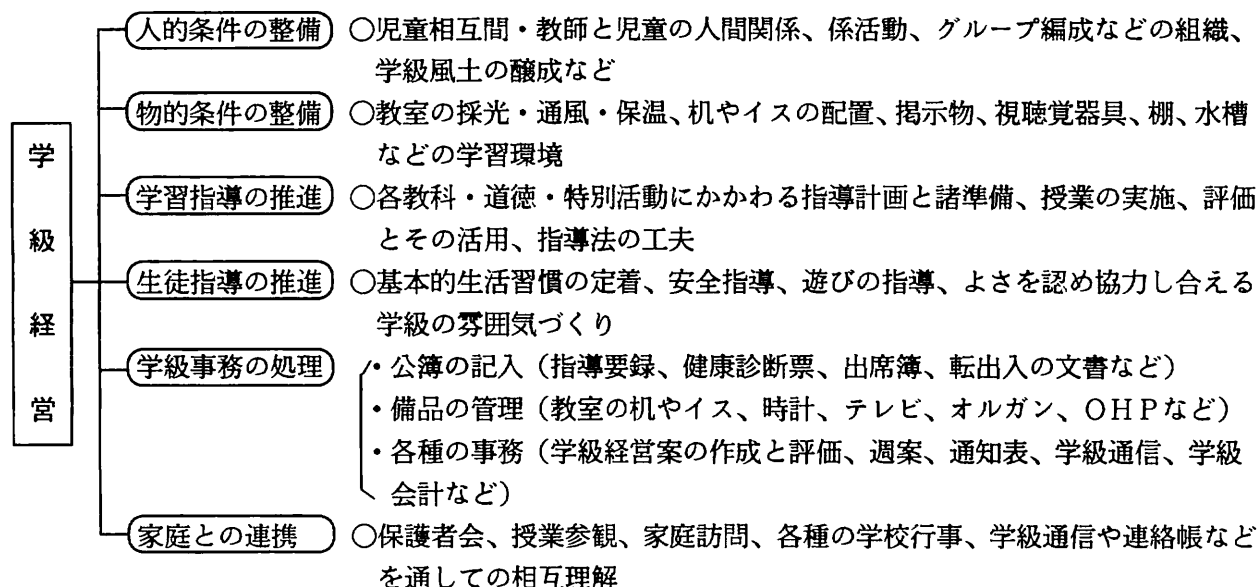
IV 研究内容

1 学級経営の意義

「学級経営の基礎・基本」(下村哲夫・天笠茂・成田國英編著)によると、「学級経営とは、学級において、児童・生徒の学習が有効に成立するように人的・物的・運営的諸条件を統合的見地から整備する作用である。」と述べられている。児童にとって、学級は学校での学習や生活の基盤となるところであり、そこでさまざまな経験を通して成長していく。児童が学級の主人公として、精一杯力を発揮できるように条件を整えてやるのが大切である。

2 学級経営の内容

内容についてはいろいろな分け方があるが、「学級経営の基礎・基本」をもとに次の6つに分類した。



3 生き生きと活動するとは

「生き生きと活動する」とは、自分の考えでいろいろ試行錯誤したり工夫をしながら、目を輝かせ熱中して取り組むことであると考え。そこで、生き生きと活動する児童の姿を

- ・自分のめあてに向かって熱心に取り組んでいる。
- ・進んで発表している。
- ・自分なりの工夫をしている。
- ・最後まで目を輝かせ頑張っている。
- ・積極的に新しい課題を見つけ学習を発展させている。
- ・友達同士仲良く助け合っている。

ととらえた。学級経営とは、「学級における活動を通して一人ひとりの児童の持っている『よさ』を発見し、引き出し、伸ばしていく営みである。」とも言われており、学校生活の中で、どの子にも活躍できる場を用意し、「よさ」を伸ばしていくことによって、児童は学ぶことに自信を持ち生き生きと活動できるようになる。

4 よさを生かすとは

「一人ひとりを生かす学年・学級経営の推進に関する研究」(函館市南北海道教育センター)をもとに、自分なりに考えてみた。

「よさ」とは、その児童の持ち味や特性をいう。その場合、その人が持っている長所だけでなく、短所もその人の「よさ」と考える。長所と短所は相対的な関係にあるが、短所を直す努力よりも長所をさらに伸ばすことによって、自信を持ち、自らの「よさ」を発揮できるようになる。

「よさを生かす」とは、あらゆる教育活動の中で、児童・生徒一人ひとりの存在感、充実感、安堵感をより高め意欲づくりを図ることにより、児童・生徒一人ひとりの「持ち味」を生かすことである。



一人ひとりを生かすためには

◎ 個人に着目すると

「何がやりたいか」という欲求・興味・
関心といった情意面に目を向ける。

◎ 学級集団に着目すると

学級内にお互いに認め合う支持的風土を醸成
する。

5 一人ひとりを生かすための教師の基本姿勢

(1) 人間的触れ合いを大切にする。

児童との触れ合いの機会を多く持つことにより、より深い児童理解ができ適切な指導・支援ができる。

＜人間的な触れ合いを大切にする教師＞

- ・子どもに教えられる教師
- ・一人ひとりを大切にする教師
- ・子供の心や感情を大切にする教師
- ・学級の仲間の相互作用を大切にする教師
- ・行動の背後にある条件やプロセスを理解しようとする教師
- ・子供の行動は環境やかかわり方によって変わることを知っている教師
- ・教えるだけでなく、子供を育てることに関心をもつ教師

(2) 共感的・受容的な児童理解を大切にする。

児童一人ひとりを個性的・独自の存在と認め、それぞれの持っている能力・適性に応じた指導支援をする。そのような児童に対する深い理解が「よさ・持ち味」を引き出し、高めていく基本となる。

(3) 一人ひとりの「よさ・持ち味」を伸ばすための評価を大切にする。

一人ひとりのこれまでの成長と、これから伸びようとする姿を認めることである。そして、児童に変容を伝えることは大きな励ましとなり、自分自身の成長を自覚することにつながっていく。

(4) 家庭や地域との連携を大切にする。

保護者の願いを受け止め、互いに協力し合うことは、とても大切なことである。

家庭との連携を行う具体的な手立てとして、

◎学年・学級通信を通して、児童の学校生活の様子を知らせる。

◎学級懇談会を通して家庭と担任が児童の様子や課題などを出し合い、そのための理解や方法について話し合う。

◎家庭訪問や電話、連絡帳などを通し、児童一人ひとりの変容についての情報交換を行う。

◎PTA行事や地域の行事などに積極的にかかわる。

6 児童の実態のとらえ方

一人ひとりの児童に適切な支援を行うためには、多様な角度から実態を把握し、一人ひとりのどこを生かどこを伸ばして行けばよいか、またどこに問題があるかを明確にしなければならない。それによって、いつどのような機会に、どのような指導・支援をすると効果的であるかが明らかになってくる。児童の実態を正しく把握するためには、様々な事についてできるだけ客観的な資料を得ることが重要である。方法については、「一人ひとりを生かす学級経営」（萩原繁夫・三浦健治共編）を参考にした。

実態把握の方法

(1) 観察法

自然な状況の中で生じてくる行動や出来事を観察する方法で、児童の行動を注意深く見て、その行動の特徴や様子をはじめ心理的特質を見極め、理解する。

(2) 面接法

あらかじめ設定した場所で、教師が子どもに質問したり作業をさせたりして、児童がどのように答えたり行動したりするかを観察する。

(3) 質問紙法

児童の興味・関心・趣味・意欲・生活状況などの調べたい項目について、あらかじめ質問紙を作っておき解答を求める。

(4) 各種検査法

児童の理解をより客観的・科学的にする方法で、知能検査、学力検査、適応性検査、ソシオメトリックテストなどがある。

(5) 作文や日記など

子どもに書かせた内容から喜びや悩み、願望、希望、欲求、ものの見方や考え方などを読み取ることができる。

各種の方法によって得た資料を総合して、一人ひとりの児童の伸ばしたい点や抱えている問題点を明確にし、それらを今後どのように指導・支援していくかなどの指導方針を立て、見通しを持って継続的に指導・支援を行っていくことが大切である。

7 テーマと関連した取り組み

(1) お互いのよさを知るために

児童にお互いのよさを知ってもらうため「やさしい花をさかせよう」を実施した。毎日帰りの会で、いいことをした児童を発表してもらいそれを花の絵がかかれています紙に書いて貼る。そうすることによってお互いのよさが見えるようになり、認め合うことによって学級の中に支持的風土が高まってくる。

資料1 児童のカード

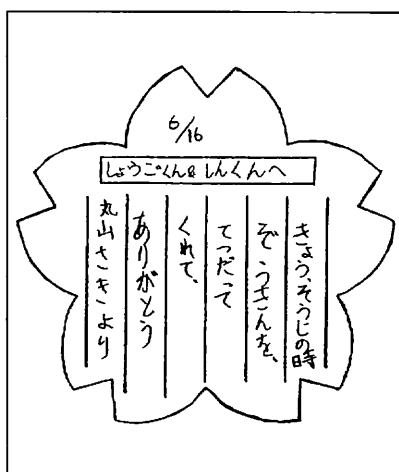
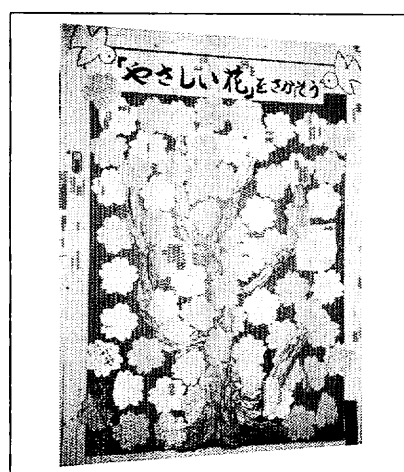


写真1 やさしい木



(2) めあてを持って取り組む

月初めに各自でその月のめあてをたてさせ達成できるように意欲づけをする。そして、月末に振り返る時間を取り達成できた児童には、シールをあげて賞賛する。めあては、無理のないようにできそうなことを学習面・生活面から1～2つ考えさせる。

資料2 めあてカード

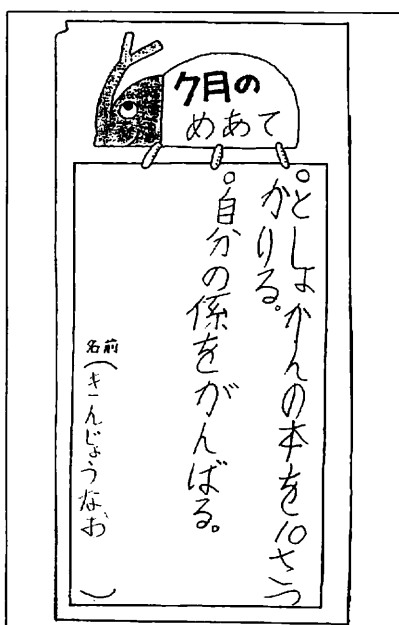
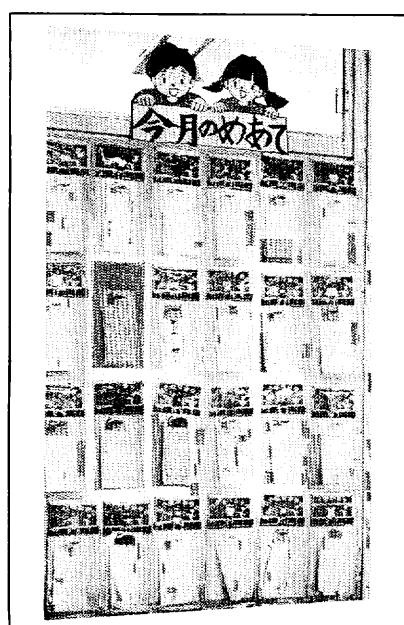


写真2 めあて表



(3) 学級経営の工夫

① 個のよさを生かす学級経営案の作成

学級経営案とは、学級教育目標を達成するための方針を示した担任の指導計画であり、P-D-S(計画－実施－評価)のサイクルで実施され改善されるべきである。

平成11年度		学 級 経 営 案		〇〇市立〇〇〇小学校 〇年〇組 男17名 女16名 計33名 担任 〇〇 〇〇		
学校目標	〇健康で明るい子 〇心豊かで親切な子 〇すすんで学習する子			学年目標	〇よく聞き、すすんで発表する子。 〇最後までやり通す子。	
学級目標	〇しっかり話が聞ける子 ・話している人を見て静かに聞く。 ・考えながら、最後まで聞く。 〇仲よくがんばる子 ・みんなと仲良く、励まし合って活動する。 ・最後まで一生懸命がんばる。			学級経営方針	〇学習態度の育成を図る。 〇基礎学力の定着を図る。 〇各自毎月のめあてを持って取り組ませる。 ●一人ひとりのよさが発揮できる場を設け、成就感を味わせる。 ●児童がお互いによさを認め合い、協力し合うような学級づくりをする。	
学級の実態	学習面	・男女とも発表する子は決まっている。女子は全体的におとなしく発表する声も小さい。 ・学習態度（姿勢）がくずれやすい。 ・集中力がなく、飽きっぽい子がいる。				
	生活面	・男女の仲がよく明るい雰囲気だが、やや活気がない。 ・係や当番活動を進んでやっている子も多いが、協調性に欠ける子もいる。 ・相手の悪い所だけを見て批判したり、自分のわがままを押しつけたりしてけんかになる子もいる。				
	特に配慮を要する子	男児U：基礎学力が十分でなく、指示されるとやろうとするが、上手にできない。 男児S：自分から皆の中に入ろうとしないが、誘われると入る。一人で遊んでいることが多い。 女児S：他から何か言われると、自分の非をなかなか認めず、けんかになることがよくある。				
	具 体 的 方 策					
学習指導	〇基本的学習態度の育成に努める。 ・姿勢図や「学習に使うことば」を掲示し、随時指導する。 〇児童の実態を把握し、個に応じた指導の工夫をする。 ・自前テスト、形成テストを行い把握する。 〇教材教具を効果的に活用し、わかりやすい授業実践に努める。 ●一人ひとりの児童のよさが生かせるような場づくりの工夫をする。			生徒指導	〇基本的生活習慣の育成に努める。 ・時間のけじめ、あいさつ、忘れ物については重点的に指導する。 〇学校や学級の決まりを理解させ、守らせる。 ・毎月の生活目標と合わせて指導する。 ●頑張った児童を皆の前で賞賛することにより意欲へとなげる。	
道徳	〇年間計画に沿って、指導の工夫・改善を図る。 〇生命尊重や思いやりの心を中心にした、道徳的実践力の育成に努める。 ●実践している児童を賞賛しよさを認めてもらう。			特別活動	〇話し合い活動が上手に進められるような手立ての工夫をする。 ●係や当番活動は、できるだけ一人一人の希望をとり入れ進んでやるように促す。 〇学校行事や諸集会は、ねらいを理解させ積極的に参加させる。	
児童理解	●アンケートをとり一人ひとりの理解に努める。 ●個人把握表を作成し、一人ひとりのよさを指導に生かすようにする。 ●毎日記を書かせアドバイスをする。 〇毎日一人ひとりに声かけし、児童との触れ合いを多くする。			学級集団	●児童がお互いによさを認め合い、協力し合うような雰囲気づくりをする。 ●特性を生かしたリーダーの育成をする。 ●どの児童にも活躍する場を設ける。	
教室経営	〇安全・清潔面に気を配り、学習しやすい環境づくりをする。 〇児童の作品を計画的に掲示し、学習や生活の様子がわかるようにする。 ●児童のアイデアを生かした環境づくりをする。			家庭との連携	●学級通信には、全児童の作品や言葉を載せるようにし、また行事後の保護者の感想なども載せるようにする。 ●連絡帳を使って、児童の学校や家庭での様子を連絡し合い、理解に努める。（特に頑張ったことやよかったことは、家庭に知らせるようにする。）	
学級事務	〇事務は、能率よく正確に行うようにし、そのつど処理していく努力をする。 〇テストや作品の評価はそのつどする。			学力向上対策	〇基礎学力の定着を図る。 ・朝の自習での漢字三文字テスト、音読、計算練習 ・家庭学習での音読、ガンバリノート、メモ日記、プリント ・進級テストや自作プリントなどによる繰り返し学習 ・読書の奨励…100冊をめざすように（山登り表の作成）	
その他	●「やさしい心の花をさかそう」の実践。 ・児童がお互いによさを知ってもらうために、「帰りの会」で、よいことをした人を発表させる。 ・毎週月・木曜日の「なかよしタイム」は、クラスみんなで遊ぶ。					

② 一人ひとりのよさを生かす個人把握表

アンケートをとり個人把握表を作成することによって、その児童に合った指導法や生かす場がわかりやすくなり、見通しを立て対応することができる。

各欄とも余白部分を作り、一年間継続して記録できるようにする。また、児童の考えや願いは変化してくるので各学期ごとにアンケートをとり、それに合った対応をしていく。

資料3 アンケート

- 1 あなたのとくいなこと（じょうずなこと）は、何ですか。

- 2 「できるようになったらいいなあ。」と思うことは、何ですか。

- 3 あなたが、学級の中でやってみたいことは何ですか。

- 4 学級でなかのいい友だちの名前を書いてください。

個人把握表

（アンケート実施 4月26日）

氏名	得意なこと	できるようになりたい	したいこと	担任から見えて	育てたいこと	手立て	児童の変容 （6月の発表会の様子）
A君	・歌が上手 ・鉄棒 ・大きな声で発表	二重とび マット運動	レク係	・明るく元気あり ・不規則な生活	・生活リズムが定着していないので学校へ行く楽しさを味わわせたい ・忘れ物、遅刻をなくす。	・日常生活での励まし ・遅刻が多いので早登校をした時賞賛をしシールをあげる。 ・音楽（歌）や体育（鉄棒）の時間にお手本になってもらう。	探検発表会では、恥ずかしそうだが大きな声で自分の分担を発表していた。
Bさん	・そろばん ・音読が上手	リコーダー	学級委員長	・リーダー性あり ・明朗活発	・リーダー性をさらに発揮してほしい。	・音読が上手なので、国語の時間にお手本読みをさせたり、学芸会の前に出る機会を作る。 ・学級委員長になるよう促す。	グループの中心になり発表会の準備をしていた。発表会でも大きな声で質問に答えていた。
C君	絵をかくこと	リコーダー 一輪車	生き物係	・やさしい ・一人であることが多い。 ・学習には消極的	・自分から皆の中に入っているように協調性を養いたい。 ・学習に意欲的に取り組ませたい。	・友達になれそうな児童を同じグループに入れて一緒に行動させる。 ・グループ活動の場において、絵をかく場面を設定し周囲に上手であることを認めてもらうことにより、皆の中に入れる。	探検発表会で紙芝居の絵をかくたりクイズを出したりすることにより、グループ活動に喜んで参加していた。

③ 学級経営評価表の作成

学級経営の評価は、いま児童に育成しようとしていることがどの程度達成されているかを知り、指導のあり方を見直すために重要である。

記入にあたっては、評価の観点にしたがって◎○△で書き、評価が△の項目についてはその内容を次学期への課題として記述する。

学級経営評価表

（ 学期）

項目	観 点	評価	課 題
学級目標	1. 学校・学年の目標に即しているか。		
	2. 児童の実態を把握して設定しているか。		
	3. 具体的で実践しやすいか。		
	4. 学年の児童の発達段階を考えているか。		

学級経営案	1. 目標を具体化できるように配慮されているか。		
	2. 経営の方針や重点が具体的であるか		
	3. 担任の考えが生かされ、創意工夫があるか。		
	4. 日々の実践に活用できる経営案であるか。		
	5. 学級の実態を考慮し、立案されているか。		
児童理解	1. 児童理解のための資料収集に努めたか。		
	2. 一人一人の状況を的確に把握しているか。		
	3. 児童一人一人とのふれあいを大切にしているか。		
	4. 個々の児童についての記録がなされているか。		
家庭との連携	1. 学年・学級目標が保護者に知らされ、協力を得られているか。		
	2. 学年・学級通信の内容が工夫、改善されているか。		
	3. 学級懇談会の内容は事前に計画的に準備されているか。		
	4. 個々の指導について、共通理解と協力が得られているか。		

V 授業実践（社会科学習を通して）

1 単元名 わたしたちのくらしとまち 「すみよいまちに」

2 単元設定の理由

- (1) 教材観(省略)
- (2) 児童観(省略)
- (3) 指導観

行動的で知的好奇心も旺盛になり、仲間意識の強い三年生の特徴をふまえ、この単元では、グループ学習をとりあげ、自分が調べてみたい施設を探検し皆に紹介する形態にした。児童は興味・関心があることに対しては意欲を持って取り組むことができ、さらに体験的な学習は児童一人ひとりがよさを発揮し取り組めるものであると考える。また、グループで活動する時、おとなしく普段目立たない児童や皆の中に入れない児童に役割分担をすることにより、活動をうながし、探検発表会の場で生かすことができると考える。グループ作りの際は、どのグループにもリーダーになりそうな児童を入れ中心になって取り組ませることにし、発表内容や方法は、それぞれの施設の特徴をふまえ自分たちで考えさせるなど児童の自主的活動を中心にし、教師側からの働きかけをできるだけ少なくするようにした。

3 単元の指導目標(省略)

4 単元の指導計画(省略)

5 本時の指導計画

(1) 単元名 すみよいまちに(探検発表会をしよう)

(2) 本時の指導目標

- ① 自分の役割分担したところを、グループの皆と協力して発表することができる。
- ② 他のグループの発表を静かに聞き、友達のよさに気づくことができる。
- ③ いろいろな施設について知ることができる。

(3) 授業の仮説

児童の希望した探検コースについて、個々のよさを生かした役割分担をすることにより意欲を持って発表することができるであろう。

(4) 展 開 (8/10)

時間	学 習 活 動	支 援 及 び 留 意 点	評 価 (方法)
め あ て を 持 つ 5 分	1 活動のめあてを確認する。 *ねらいの確認をする。 *決まりを確かめる。 ・発表する時は大きな声でする。 ・聞き手は姿勢を正して静かに聞く。	○発表が上手にできるようにしっかり確認させる。	(関) 調べたことを意欲的に発表しようとしている。 (行動・つぶやき)
お こ な う 30 分	2 探検発表会をしよう。 (1) 探検コースごとに発表する。 ・西崎プール ・勤労者体育館 ・中央公民館 (本時)・西崎総合体育館 ・太陽児童センター ・中央図書館 (2) 各コースの発表毎にわからないことや知りたいことを質問する。 (3) 施設でサークル活動をしての感想を発表する。	○グループみんなで協力して発表するよう助言する。 ○それぞれの施設の設備や利用状況について目を向けさせる。 ○発表が上手にできない時は助言をし、質問がでない時は担任自ら皆に問いかけ、質問を出させるようにする。 ○サークル活動をしている子二人に前もって書かせておく。	(思) 大きな声で発表することができる。(発言) (知) 友達の発表からいろいろな施設について知ることができる。(発言・感想カード)
ま と め る 10 分	3 探検発表会の感想を書き、発表する。	○感想カードの準備をする。 ○書けない児童には、書く視点をアドバイスする。 ○上手に発表できたことを賞賛する。	(思) 友達のよさに気づくことができる。(発言・感想カード) (関) 利用したいと思う施設があるか。(発言・感想カード)

(5) 授業後の児童の変容

男児・・・授業には消極的な面が多いが、探検発表会準備の時は工作が好きであることを生かし、紙芝居の箱づくりを進んで担当した。また、扉などの細かい所まで工夫し、生き生きと活動することができた。

女児・・・しっかりしているが、おとなしく自分から進んでやろうとしないので、発表会の司会をお願いした。初めは緊張し声も小さかったが、慣れてくるにつれ堂々とできるようになった。また、大役を果たした喜びから発表会後も積極的に活動するようになった。

資料4 よさを生かした役割分担

名前	得意なこと	役割分担
A	絵をかくこと	紙芝居作り、クイズを出す
B	野球、習字、リーダー性あり	班長、題字書き、紙芝居作り
C	工作、手先が器用	紙芝居を入れる箱作り
D	習字、空手	紙芝居作り、空手の発表
E	そろばん、習字、作文	司会、発表文書き、説明文書き
F	文を書くこと、習字、ピアノ	発表の文を書く、ペープサート作り
G	サッカー、そろばん、リーダー性あり	班長、司会

6 授業の考察

資料5 児童の感想

- (1) 「探検に行きたい施設」ということで児童に挙げてもらった6つの施設を扱い、さらに各自が行きたいコースを選んで探検した。児童の中にはすでに行ったことがあり、ある程度様子を知っている施設もあったが、再度見学することにより詳しく知ることができ「探検発表会」においてはいろいろな視点から発表することができた。また、自分の希望するコースを選択させたため、グループに人数の偏りがあったが、人数の多いグループはペープサートやクイズを取り入れるなどそれぞれ工夫が見られ、どの児童も興味を持ってより自主的に活動し生き生きと発表会に参加していた。

- (2) 「だれが何をやるか」の役割分担は、主としてグループで考えさせることにした。道具作りの際はほとんどの児童が自分の得意とするものを選び一生懸命取り組んでいた。何をしたいのかわからない児童には、その子の好む作業を勧めた。すると夢中になり取り組んでいた。また、発表会の時もグループ皆で役割を分担し、全員が発言し、発表に行き詰まった児童がいたら教え合っている場面も見られた。自分の得意なことをすることによって授業に自主的に参加するようになり、さらに成就感も味わい生き生きと活動することができた。授業後の感想では、ほとんどの児童が発表会を楽しかったと書いており各グループの発表を聞いて施設に関心を持ったようである。その後実際に施設に行った児童が8名おり、他にも休みに行ってみたいと関心を示す児童もいた。

IV 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 学級経営や個の生かし方についての理論を研究することにより、理解を深めることができた。
- (2) 事前に担任が個々のよさを知り個を生かす場づくりをすれば、児童も活動がしやすくなり積極的に取り組むようになる。さらに、成就感・達成感を味わうことにより自信をつけ、他の学習面においても積極的に取り組むようになることがわかった。
- (3) 学級経営案や学級経営評価表を作成することにより、見通しを立てて授業実践をすることが容易になり、また振り返ることによって次学期へ生かすことができる。

2 今後の課題

- (1) 個のよさを生かした授業展開の工夫と実践
- (2) 学級経営年間指導計画表の作成
- (3) 一人ひとりの実態に応じた支援の仕方

〈主な参考文献〉

下村哲夫、成田國英、天笠茂共編	『学級経営の基礎・基本』	ぎょうせい	1994年
片岡徳雄著	『個を生かす学級を育てる先生』	図書文化社	1996年
萩原繁夫・三浦健治共編	『ひとりひとりを生かす学級経営』	文教書院	1990年
全国教育研究所連盟	『個を生かす教育の実践 下』	ぎょうせい	1994年

たんけんはっぴょう会をして

3年2組 前川 紬女己

わかったこと

中央図書館の
コンピューターは読
みたい本をさがす
ためのコンピューター
ということがはじめて
わかった。

よかったところ
(お友だちのはっぴょうで
よかったところ)

なな子さんの声か
大きくてとても聞
きとりやすかった。
友花さんカッセ
セと動いている所
がよかった。

行きたいところ
(なぜ行きたいですか。)

西さきろうこう
体育館
①バスケットとかス
ポーツをやりたい
いし、写真とかを見
に行きたいから。
②どんな戸所か見に
行きたいから。

ぎょうのはんせい

○大きな声ではっぴょう
できましたか。

○さいごまで静かに聞く
ことができましたか。

○はっぴょう会は楽しか
ったですか。

○

○

○

△

△

△